

会 議 結 果

会 議 名 (審議会等)	令和6年度 第1回高砂市子ども・子育て・若者会議
開催日時	令和6年7月9日 (火) 18:30～20:30
場 所	高砂市役所 南庁舎5階 大会議室
会議公表	☒ 公 開 (傍聴者定員数: 3 人) (傍聴者数: 2 人) ☐ 非公開 (非公開理由: (例) 情報公開条例第7条の規程に該当するため。等)
事務局 (担当課)	健康こども部子育て支援課 (TEL079-443-9024)
議 題	(1) 子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について (2) 第2次高砂市子ども・子育て・若者支援プランについて (3) 高砂市子ども・子育て・若者支援プラン策定のためのアンケート調査結果報告書について
出席者	委員17名 (欠席3名)
結 果 (議事録又は議事概要)	
発言者	内 容
事務局	皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。事務局の橘と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 会議の開会の前に、本日の会議資料の確認をお願いいたします。配布しております会議資料一覧をご覧ください。会議資料一覧ですけれども、1から12の資料を、資料5につきましては本日机上の方に配布させていただいておりまして、それ以外につきましては、事前に郵送にて、資料の方お送りさせていただいております。よろしくをお願いいたします。 もし、お手元に資料がない場合は事務局までお申し出いただきましたら、資料の方を配布させていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。 1 開 会 それでは定刻となりましたので、令和6年度第1回高砂市子ども・子育て・若者
事務局	

	会議を開会いたします。 開会に先立ちまして、当会議の公開についてですが、高砂市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして、公開とさせていただきます。 また本日の傍聴者は2人となっております。よろしくお願いいたします。
事務局	2 委嘱式 それでは、高砂市子ども・子育て・若者会議の委員の委嘱を行います。 都倉市長より、時間の都合上申し訳ございませんが、代表の委員に交付させていただきます。
事務局	【市長より委嘱状の交付】 その他の委員の方につきましては、失礼ではございますが、机上的方に委嘱状を置かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。
事務局	3 市長あいさつ 続きまして開会にあたりまして、都倉市長よりご挨拶申し上げます。
市長	皆さんこんばんは。ただいまご紹介いただきました市長の都倉でございます。 本日は大変お忙しい中、またお仕事でお疲れのところ、ご出席をいただきましてありがとうございます。 平素より本市の子ども・子育て支援並びに若者育成にご理解とご協力を賜り、重ねて御礼を申し上げます。 さて、こどもや若者に関する施策、いわゆるこども施策については、これまでも国を挙げて施策の充実に取り組んでいたものの、令和5年度の合計特殊出生率は1.2と、8年連続で減少をしており、依然として少子化の進行、人口減少に歯止めがかからない状況であります。 さらに児童虐待や不登校などこどもを取り巻く環境は深刻化、複雑化しております。 令和5年4月にこども基本法が施行をされ、こどもの最善の利益を第1に考え、社会全体でこども施策を総合的かつ強力に推進していくことが、これまで以上に求

	められており、また令和5年12月には、政府が掲げる異次元の少子化対策の具体的な内容を示す、こども未来戦略が閣議決定され、今後3年間で集中取り組み期間とする加速化プランをもとに、本格的に少子化対策にかかる施策が実行されています。 本市におきましても、こども大綱に定める全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会、いわゆる「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こどもたちの声に耳を傾け、様々な企業や民間団体と連携・協働し、ひとりひとりに寄り添う支援策の充実を図って参ります。 委員の皆様方には、様々なお立場からの幅広いご意見をいただき、未来を担うこどもたちの成長を支える高砂市子ども・子育て・若者支援プランの次期策定や、こどもと若者の健やかな成長と、子育て支援にお力添えを賜りますよう、お願いを申し上げます。 どうぞよろしくお願い申し上げます。
事務局	4 委員紹介 引き続きまして、委員の方々の自己紹介をお願いいたします。 【出席委員の紹介とあいさつ】
事務局	続きまして、高砂市の出席者のご自己紹介をいたします。 【事務局の紹介とあいさつ】
事務局	5 委員長、副委員長の選出 続きまして、子ども・子育て・若者会議の委員長、副委員長を選出して参ります。 【高砂市子ども・子育て・若者会議条例第5条第1項により、委員、委員長及び副委員長は、委員の互選となっているため、事務局案として、委員長1名、副委員長2名の選出を事務局から提案し、異議なしにより承認】
事務局	ありがとうございます。

	それでは、子ども・子育て・若者会議の委員長に就任されました、委員長、副委員長から、一言ずつごあいさつをお願いいたします。 【委員長、副委員長あいさつ】
事務局	6 諮 問 続きまして、第2次高砂市子ども・子育て・若者支援プラン策定について、諮問書を、市長の方から委員長の方にお渡しいたします。
市長	高諮第4号、令和6年7月9日、高砂市子ども・子育て・若者会議委員長様。高砂市長都倉達殊。諮問書。 こども基本法第10条第2項、子ども・子育て支援法第61条第1項、母子及び父子並びに寡婦福祉法第12条第1項及び子ども・若者育成支援推進法第9条第2項の規定に基づき「第2期高砂市子ども・子育て・若者支援プラン」を定めるに当たり、高砂市子ども・子育て・若者会議条例第2条の規定により貴会議の意見を求めます。どうぞよろしくお願いします。
事務局	市長ですけれども、他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。
事務局	それでは議題に入ります前に、本日の委員20名中、17名の委員にご出席いただいております。 出席者数が過半数となっておりますので、高砂市子ども・子育て・若者会議条例第6条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。 これより、会議の進行につきましては、委員長をお願いいたします。これまでの進行にご協力いただきましてありがとうございました。 それでは、委員長よろしくお願いいたします。
委員長	7 部会の設置 それでは早速ですが、次第の7「部会の設置」に移らせていただきます。 高砂市子ども・子育て・若者会議条例の第7条第1項に、会議に部会を置くこと

	ができると定めております。 部会としまして、子ども・子育て部会と若者部会の二つの部会を設置し、子ども・子育て部会につきましては、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援計画について、母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づく自立促進計画について、若者部会につきましては、子ども・若者育成支援推進法に基づく若者支援計画についてご審議いただきます。 部会の振り分けは資料1の通りとなります。
委員長	8 部会長、副部会長の選出 引き続きまして、部会長、副部会長の選出を行います。 【高砂市子ども・子育て・若者会議条例第7条第3項により、部会長は委員の互選となっているため、子ども・子育て部会の部会長・副部会長、若者部会の部会長・副部会長の選出を委員長から提案し、異議なしにより承認】
委員長	ありがとうございます。 今年度は次期高砂市子ども・子育て・若者支援プランを策定することから、子ども・子育て部会、若者部会は、別れて開催することなく、子ども・子育て・若者会議開催を、本日を含めて4回予定しておりますので、よろしくお願いいたします。 続きまして、議題に入る前に、子ども・子育て・若者会議及び高砂市子ども・子育て・若者支援プランについて、事務局からご説明をお願いします。
事務局	【事務局より参考資料1に基づいて説明】
委員長	それでは、議題に入りたいと思います。 議題1「子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について」を事務局からお願いいたします。 9 議 題 (1) 高砂市子ども・子育て・若者支援プランの進捗状況報告について

事務局	【事務局より資料２－１、２－２、２－３、資料３、参考資料２に基づいて説明】
委員長	今のご説明に関しまして、皆様からご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。
委員	病児保育事業のことにに関してなんですけども、まず資料の３の４－９、病児保育事業のところで、令和５年度の実施人数、実績ですかね、１，５５７人となっております。 資料戻りまして資料２の１の１９ページの５－２－１－５、病児保育事業の充実ということで、これ令和５年度の市民のみ高砂市の利用ということで、２施設、すくすくひろば７５２人、だっこ８０５人と、この合計が１，５５７人ということでこれは合うんですけども、昨年度から、病児保育事業に関しましては、広域事業ということで、高砂市だけではなく、加古川市・高砂市、加古川に２施設ありますんで、３施設で、広域に賄うというようなことになったと理解してるんですけども、加古川の施設にどれだけ利用があるのかがちょっとこの数字で見えないんで、そこをちょっと教えていただけたらと思います。 広域で、加古川市と高砂市で病児保育事業をするという、それはすばらしいことなんですけどもここに上がっている数字が高砂市のこどもさんが、高砂市の施設に利用したという数だと思うんですけども、高砂市の方が、加古川の施設を、どれぐらい利用されてるのか、広域事業になったんですけどもその辺の数字がちょっと、出てないんで、そこを知りたいという、はい。
委員長	事務局よろしくお願いいたします。
事務局	今回の施策の評価シートにつきましては、市の評価というところになっておりますので、加古川の病児保育室を利用された人数というのは、記載しておりません。 その上で、加古川市さんとも情報のやりとりをさせていただいておりまして、昨年度、加古川市のアインスという病児保育を利用された高砂市の方は、年間で２２名となっております。
委員長	２２名という数字、今、お聞きしましたけれども何か、質問されたこと、何かか

	思いがおりで質問されたのかなと思うんですが、22という数字は、どのように思われましたか。
委員	高砂市の中で、完結するという形の、数字なんですけども実際の運営のところは、加古川市・高砂市広域っていう形になってますんで、その地域としての、この東播地域の病児保育事業というふうに目を広げると、やはりその3施設にどれだけの利用があったかというのを、データを出していただかないと、高砂市のデータだけではちょっと広域事業になったのに、加古川市へのね、行き来があると思うんです。加古川市の方が高砂市、高砂市の方が加古川市と3施設の数字を出していただかないと、ちょっと僕は実施担当者なんで、わかってるんですけども、ぱっとこの数字だけ見たら、ちょっとまず広域にやってるっていうことをご存知でない方もいらっしゃると思いますし、広域でやって、広域で加古川市・高砂市がうまくやっているのかっていうことまで広げてみると、ちょっとデータがそれでいいのかなと個人的には思って、昨年度から広域に始まったんで、できれば3施設の状況がどれくらいあるのかっていう数字で出せていただいた方が、この地域の病児保育事業がどういうふうになっているのかっていうのが、わかりやすいんで、できれば、そういうデータを出していただけたら、もっと議論が病児保育に関しては深まるんじゃないかなと思ってるので、はい。
委員長	市の事業なので、市で高砂市でとおっしゃいましたが、参考資料としてちょっと数字が上がっていれば、よりわかりよいのかなというご意見だと私は聞かせていただいたんですけども、そういう工夫がまたできるようでしたら、ぜひ、次回のご報告からよろしくお願いいたします。
事務局	こちらの施策評価シートに載せるというのは、あくまでも市内でのニーズ量の数字を出すものになっておりますので、また毎年1回ご報告をさせていただいているこのタイミングで、参考資料という形で、内訳をお示しさせていただけたらというふうに思っております。
委員長	A評価・S評価が多いっていうところで、何か、さらに付け加えてご感想とか、ご質問ございますでしょうか。

委員	本当に高い評価で、感銘を受けたというのが、正直なところなんですけど、今ちょっとご説明いただいたところではないんですけども、資料を拝見させていただいてまして、資料2-1の10ページのところなんですけど、保育の充実というところで、施策番号で言いますと、3-1-2-1保育士が確保できるよということていろんな取り組みをなさってるということなんですけど、私もともと小学校で働いてまして、教員不足というのが今すごく課題となってるんですけど、この保育の現場でも、高砂市において、保育者がやっぱり足りないとか、というようなことはあるんでしょうか。 ありましたら何名ぐらい足りないとかってというようなところを教え願えますと、ありがたいかなと思います。よろしくお願いいたします。
委員長	事務局よろしくお願いいたします。
事務局	民間、公立もそうなんですけれども質の高い保育を充実させるために保育士の確保というのは、もちろん非常に重要であると考えております。 その中でですけれども何名足りないという把握は現在のところしてはいないんですけども、日々確保に向け高砂市の方でも、人事課を通じまして募集等を行っておるところです。確保につきましてはこれからも充実させてやっていきたいと思っております。
委員長	市としてのご回答はそうだったんですが、現場で、実際にこども園だとか、保育園で、保育士、それから保育教諭確保に苦労していますっていうふうなことがございましたら、少しご意見いただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。
委員	私どもは民間でいつも就職フェアをさせてもらっています。もちろん公立の、先生方にもご協力いただきまして、高砂市は本当に公立と仲良くさせてもらっているんで、公立の採用試験に便乗させてもらって、その学生さんたちにも、私たち民間のことを知ってもらおうっていうような新しい取り組みを、この何年もしていただいていることで、民間のための就職フェアというよりは公立を受けにこられてる方に、民間のよさを分かってもらって、公立も受けますが、民間も来ますっていう感

事務局	じの取り組みをしてもらってるおかげで、結構就職フェアには来ていただけます。 今年はタイミングがよかったのか、兵庫大学の方からたくさん来ていただきまして、17、8人来ていただくことができました、たくさんお話をさせていただきまして私たち感謝しております。 ただ、民間だけでやると、去年は1名でございまして、すごくショックを受けていましたので、やはり民間としてはもう少し採用したいというのが、毎年園長会の方でもお話をしている、本当のところはもっと就職フェアをしたいとか、学生さんに、高砂市で働く良さをわかっていただきたいなっていうふうな気持ちをたくさん持って、どういったことが一番、高砂市こそ、ずっと働ける、いいところだよっていうのをわかってもらえるのかなあっていうのを私たちいつも、頭を抱えて悩んでいます。 こどもたちに手厚く、本当に寄り添った保育ができるような、先生方が来ていただけるようにとずっと思っておりますので、何人っていうのは多分私たちも、言えないですけど、来ていただけたら嬉しいと思っております。 公立、民間とも非常に保育士不足というのは、高砂市だけではなくて全国的、大きな課題になっています。 高砂市につきましては、学童保育所もそうなんですけども、保育所、認定こども園におきましても、関係機関の皆様のおかげで、待機児童ゼロということで、今まで1度も待機児童を出したことはないということで非常に仕事、子育ての両立支援というところで我々も自負しているところなんですけども、この度国の方で76年ぶりの保育士の配置基準が見直しがされまして、非常にこの待機児童がまだ近隣市でもたくさんいる中で保育士がさらに不足するというような基準の見直しがされております。 ここにつきましては、市だけではなくてやはり民間の各事業者の皆さんと一緒に保育士の確保に努めていかなければならないのかなというふうに思っております。 先ほど委員の方からありましたように、保育士フェアということで、民間事業者さんのご協力を得まして、これ保育協会というところ、高砂市の保育協会と高砂市の共催という形で、毎年、保育士フェアということで保育士の確保に努めているんですけど、なかなか人の集まりが難しいというようなことが課題で、民間園の皆さん
-----	---

	廃止ということでCとなりました。青年の家の運営、おそらくいろんな事情があつて、なくなったのかなと思うんですけども、私自身も幼稚園であつたり、小学校の時にあそこの施設を利用していたという思い出もありますので思い出の場所がなくなったというのは少し残念なところであります。市として今後、来年度以降ですね、このような、いわゆる社会教育団体とかが使える施設などを運営されるご意思があるのかどうかというのを伺いたいです。 最後に3点目です。これ全体通してなんですけれども、評価がS、A、B、C、多くがAに固まっていると思います。これだと、例えばAがすごくパーセンテージ的にどの計画を見ても多いと思いますので、Aの中でもいいのか悪いのか、予定通り進捗してる中でも、当初の予定以上に来ているからAなのかそれとも予定通り本当に予定通りなので、ぎりぎりAなのか、それが少しわかりにくい評価になってしまっているのではないかなと思いました。なので、例えば、AプラスAマイナスっていう形で、8段階評価などにするとより、どこに重点的に計画を置いて施策をしていけばいいのか、わかるのかなと思いました。
委員長	3点ご意見いただきました。 特に最後のご意見もそうなんです。このすばらしい評価を見つつ、いつも評価基準は何なんだろうかと、きっとこのこれまでから委員を経験してきている皆さんは、思いを持ってそれをずばり言葉にしてくださったんですけど、今後ね、こういうもう少し細かく評価してはどうかということとそれから具体的に3－1－6のね、青年の家、こういうふうな施設を今後運営していく予定があるのかどうかというところと、A評価になっていますが予定よりも、予定通りちゃんとこう人が来たということで理解しているんでしょうかというご意見がございましたので、それぞれについて事務局からご回答よろしく願いいたします。
事務局	ご質問ありがとうございます。 まず、大変難しい、答えることが難しい質問もあつたかなと思ってるんですけども、わかる範囲でお答えさせていただきたいと思います。 まず就職支援の回数なんですけれども、これはA評価になってるのは、一覧を見ていただいて、なぜAなのかっていうところは予定通り、計画通りにやってるっていう場合がAというふうになっておりますので基本予定してた通りやれば、とい

委員長	うところす。就職支援につきましては、就職支援をするのは基本的にそういう幹旋をできるところが、ハローワークが中心になって参ります。ハローワークさんっていうと、加古川市に拠点がございますので、それを何とか高砂市の方でやっていただきたいということで、担当の部署の方が、何とか高砂でもやってくださいという形で、誘致してやっているもので、ハローワークさんとの協議の中では年間に1回程度っていうのが、協議の中で、なっているのでそれが予定通りできたということでA評価となっております。 ただ、確かに就職の支援というところが先ほども保育士さんの確保っていうお話もございましたので、また少子化のところで若い世代の就職の環境ですよね。そういうのを何とか改善して少子化対策をしていかなければならないという国を挙げての方針がございますので、またそのあたりは次の計画のところで、この委員からご意見がございましたこと担当と協議をして参りたいと思っております。 2点目です。青年の家、こちらは老朽化が進んでおりまして、他のものに転用しようとしてもなかなか難しいというところで、そこで活動されてた社会教育団体は、教育センター、生石に拠点を移しましてそこで、活動をされておられます。 また、高砂市はこのたび地域交流センターを各地で公民館を使いやすいようにという形で、皆さんの活動拠点として使っていただけるようにということで今施設のあり方を見直しておりますので、今後の高砂市の活動というか、それにご期待いただけたらと思います。 もっと使いやすい施設にということでご意見をこれからもいただいて、その旨は、担当の方とも協議していきたいと思います。例えば若者の方のちょっと立ち寄れるようなところが欲しいという要望もありまして、日本全体で湧き上がってきてるのかなって思ってますのでそのあたりのご意見としていただきたいと思います。 それと確かに評価がこのたび、今年度までのこの計画の評価の仕方っていうのを、Aが、計画通りできました、Sは計画以上にできましたという判断ということさせていただいております。この評価につきましても、また、今の計画はこの評価でさせていただきますが、次の、先ほど委員長に諮問をさせていただきました、新しい計画で、どのように評価していくのかっていうところの議論では、参考にさせていただきますのでまたそのあたりで、ご意見を頂戴したいと思います。 それでは、議題2の方に移らせていただきたいと思いますというふうに思います。
------------	--

	議題2「第2次高砂市子ども・子育て・若者支援プランについて」を事務局からご説明お願いいたします。 (2) 第2次高砂市子ども・子育て・若者支援プランについて 【事務局より高砂市子ども・子育て・若者支援プラン、資料4、資料5、資料6に基づいて説明】 委員長 当事務局からのご説明が終わりました。 現行プランでも、国が必要とする計画がほぼすでに入っていた、足りない部分をくっつけますではなくて、もう全く新しく組み直して次期プランをというふうなご説明をいただいたかなというふうに思うんです。 まだまだ、体系案でこうね、項目が並んでるだけですので、何を質問していいのかなっていうところもわかりにくいかもしれませんが、これからこの体系案を充実させていくにあたって、きっと皆様のご意見というのはすごく貴重なものとなると思いますので、ぜひ、忌憚のないご意見をちょうだいできたらというふうに思います。何かございましたら、どうぞよろしくお願いします。 委員 普段は学童保育の方をさせていただいて、その中でも虐待の關係の報告が、基本的に僕のところにすべて上がってきて、僕の方から児童相談員さんにそれぞれ報告をさせていただくというような形をとらせていただいています。それですぐに動いていただいて、いろんなこと学校さんとも連携させていただきながら、情報提供させていただいています。 実は子ども食堂のお世話もちょっとさせていただいてるんですが、その子ども食堂の方から上がってくるものっていうのが、学童保育やった小学生で完全にこどもなんです、微妙な年齢の17歳でもうすぐ18歳とか、時には、20歳とかでもまだまだ、大変な状況だったりおうちの環境がなので、抜け出せなかったり逃げ出せなかったりとかっていうケースもあったりとかして、先ほどのお話で発達、心の発達状況に、年齢は問わないみたいなこともあったんですが、なかなか児童相談員さんにお願いをしても、いやあっていうことになりかねない。まだそんなことは言われてないですけども、真剣にとらえてくれはるんですけども、なりかねへんなっ
--	---

	ていうところと、虐待の防止についてのあれはあるんですが、困難に直面する若者の支援っていうようなここに含まれるんかもしれないんですが、その虐待を受けているとか、その家庭環境によって逃げざるを得ないとかっていう、こどもとか若者とか、微妙なところの、誰に言ったらいいのってのが、子ども食堂さんもわからん、いろんなそういう事案があってもわからなくて僕に言われても、児童相談員さんにちょっと相談するしかなかったり、その先がちょっとわからなかったりとかっていうようなところがあるんで、何らかの形でそういうことも含めていただいたらありがたいなというふうなことをちょっと思っています。
委員長	ありがとうございます。こどもをね、どうとらえるかで、確かに大きくとらえていくんだけど、個々の法律はこどもの年齢が定まっていたら、それは、ここでは使えません。だからうちの業務ではないというふうなことが起こりえないだろうかというご心配だったかなというふうにも思いますし、虐待に関することっていうところでは特にねその辺りが非常に気になるっていうところで、ご意見出してくださいましたので事務局どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	委員のおっしゃる通り、こどもという年齢のどこに持っていったらええんかなというところがあると思います。その辺に関しましてもこの計画、作っていく中で、またこちらの方でもちょっと検討させていただきまして、入れる入れへん、どこに相談していくか等も踏まえて、またちょっと進めていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。
委員長	では、市に相談すれば大丈夫っていうふうに理解してよろしいんでしょうか。 今のご回答はどこに言っていればわからない時はとにかく市に相談すれば、市の方ではしっかり検討して対応しますという、ご回答だと理解してもよろしいですか。
事務局	はい。
委員長	困ったときは、市にご相談したら、また検討して対応してくださるというすごく安心できるご回答をちょうだいいたしましたので、それぞれの部署で本当にね、どこに言っていっていいんだろうっていうときにはまず市にご相談させていただき

	たいというふうに思います。
事務局	令和6年4月からこども窓口課ということで、こどもに関する相談窓口ということで、こどもに関しては、先ほど申しました年齢に関わりなく、そういったこどもに関し、こどもの相談窓口が、こういった窓口を受けるような体制を現在4月から整えておりますので、4月から設置したところでなかなかまだ手探りの状態でもあるんですけど、そういった、どこに誰に言ったらいいのかちょっとわからないようなこどもさんに関しても、こども窓口課の方でしっかりと、そういった悩みとか、話を聞きながら取り組んでいきたいと考えております。以上です。
委員長	他に何かご意見ございましたら、よろしくお願いいたします。
委員	今日は否定的じゃなくてよかったなと思うところがあったので、資料の4章の抜粋で、外国人家庭の支援の充実っていうのがこの前のやつには載ってなかったかなと、今めっちゃ急いで見ましたが、やっぱり保育園だったり小学校だったり、働く外国人の方すごく増えてきてるので、それに伴って家族滞在の人が今すごく増えて、日本語できない奥様方とか、すごく今増えててそこに私たちが運営してる日本語教室に来てくださってるんですけど、やっぱり保育園の制度めっちゃ難しいですよね。もう1号、2号、3号、私もこどもがいないからわかんないですけど、一緒に読み解いて、私たちのスタッフは今英語できますけど、英語できないベトナム人、インドネシア人とか、やっぱりすごく増えてるので、こういう外国人っていうワードが外国人というワードがよかったのかわかんないですけど、その日本人以外もちゃんと市民としても見てもらえてるなっていうのがちゃんとここに表れてすごくよかったなと改めて思ったのと、そういう家族ももちろんあるんですけど、やっぱり今、技能実習生の制度も変わってくるので、今後は技能実習生も実は高砂市すごく浜手の方は、エンジニアとかのすごく、ハイレベルなキャリアのある方達なのでまた違うんですけど、すごい高砂市でもピンキリの人がたくさんいらっちゃって、なので、やっぱり技能実習生が逃げるっていう話は私たちのところもちろん相談はないんですけど、そういう問題とか、残念ながら、やっぱりニュースになるような技能実習生がこういういろいろあってっていうような企業も残念ながら高砂市にももちろんあるので、もちろん市に相談に行ったら、私たちが対応するっていう今はそう

	いう仕組みになってるんですけど、ちょっと今スタッフ2人でやってるので、まあまあ限界かなというのと、私もベトナム語とができないので、なんかそこら辺も市と、上手に連携していきたいなと思ったのでこの外国人家庭だけじゃなくてそれこそ、今技能実習生で働いてるのも18歳、19歳、20歳とかのすごい若い子たちが一生懸命、まあ言えば日本人が行かない職業の方に行ってくれてやってるっていうのもあるのでそういうところも皆さんと同じように税金・年金払ってるので、市民として、サポートしていけて、それがちゃんと市の人も認識してもらえてっていうのがこの中にも含まれていくとすごくいいなと思ったので、今回は良いポイントを言いました。ありがとうございます。
委員長	きっとこの主な取り組み項目を見るとそれぞれの現場から、こういう実情がありますよ、こういうこともしっかりとプランの中に組み込んでいきたいです、みたいなご意向が出てきそうな気もするんですけども、いかがでしょうか。今日で終わりではないので、まだご発言いただく機会はございますけれども、せっかくねお集まりくださってるので、ここはいいですっていうのもすごくこうプランづくりには、何か勇気づけられる言葉だったのではないかなと思うんですけども。いろんなお立場からお見えですけど、いかがですか。
委員	プランの中で3番若者が希望を持ち生活する環境づくり、このこども大綱を基本にした基本方針3について、少しご意見を述べさせていただきます。 心と体の健康づくりすこやかな成長に向けた教育・保育の充実もすごく大事でそこに対して各種四つづつ取り組みが入ってるっていうのは、すごくいいかなと思いました。 そこに対して今回私が若者委員に応募するときの文章でも書いたんですけども、高砂市最後のですね「若者が希望を持ち生活する環境づくり」の2番、就労支援と雇用っていうところに関しては昨年度もハローワークさんと、先ほどありましたけど提携をしてやられているということだったんですけど、1番目の社会的職業的自立に向けた支援、言葉自体が、少しいろんな意味を含んでいるかなと思うんです。特に私ですね学部生時代から学生団体をいくつか運営をしております、いろんな活動を主にやってきたんですけども、やはり自分がこういうことをしたい、例えば海外に行きたいであったり、そう思ったときに、でも、どうしたらいいのか

	わからない。1人で海外に行くのはなかなか勇気がいるっていう子たちもたくさんいると思いますので、例えば今回、兵庫県が武者修行プロジェクトっていうのをやってまして、海外支援に行くためのお金を出しますよと兵庫県が、その分こういうプログラムに参加してくださいね、兵庫県の中で伴走型でやっていきますよっていうのがあるかなと思うんですけども、何かこういうことをやってみたいとか、今高砂市に住んでいる若者でこういうことをやってみたいけどどうやったらいいかわからない、自分の夢を実現するためにはどうやったらいいかわからない、そんな人たちに対しての支援っていうのをもう少し盛り込んで欲しいな、特にこの3番の「若者が希望を持ち生活する環境づくり」を二つだけじゃなくて、もう少し細かく、取り組みもふやしていただけたらなと。 この主な取り組みの名前だけじゃわからないところもたくさんあると思うんですけども、もう少し、社会的自立になるんですかね、どちらかという、高砂市が皆さんを支援しますよ、夢を持った若者を支援しますよっていう取り組みをふやしていただきたいなと思います。以上です。
委員長	ありがとうございます。すごく具体的なイメージでもお話していただきましたが何か事務局の方から、回答ございましたら、よろしく願いいたします。
事務局	今回公募させていただいた若者委員は、今4名の方お願いしてますけれども、実は7名の方から応募がありました。またそれ以上の方からも問い合わせがございました。 今回本当に若い方のそういう閉塞感というかそういう雰囲気も担当者としては感じているところです。その中で、高砂市に対して若い人が何かチャンスをつかもうとしている人の支援をして欲しい、例えばこういうことをというご意見をいただいて本当に感謝しております。なかなかそういうのが今の計画を見ていただいてもわかるように現行の計画ではなかなかない項目でございましたので、そのあたりは市としても、何かこうしていかないといけないなとは考えております。 例えば、委員がおっしゃっていただいたようにこの②っていうのは先ほどご意見がありましたハローワークさんとかの就職の支援、こちらになります、大人になる一歩手前の人たちが、何か始めたいというときのきっかけづくりというかそちらが市としては今あまりない、ないこともないんですけどもほとんどないという

	ころです。また委員のご意見をお聞きしながらまた、市としてもどんなことができるのかというのを整理しながら、この計画はまだ項目だけしかできてないんですけどこの、①の社会的自立に向けた自立、チャレンジしてみようっていう方達をどうして、どうやったらサポートできるのかっていうのも、市としても出していきますしご意見いただけたらと思ってます。それは外国の方も含めてなのかなと思っておりますので、またご意見を今日もいただいて大変ありがたいと思っております、具体的なものをまた提案していこうと思いますので、アドバイスいただけたらと思います。
委員長	若者のね、そういう夢を応援するっていうことはひいては、定住に繋がり、少子化対策にも繋がってきそうな気がしますので、多分、今回みんなまとめて一つの計画にしていかれるっていうのも、すべてリンクしているからだというふうには思います。 すごく期待が膨らむご意見を、委員から出していただけたかなというふうに思うんですが、経験の中で本当にこんなこと私たちは感じてきているんですよ、こういうところ、組み込みませんかというふうな、皆さんの希望を、他にございましたら、ぜひ出していただけたらと思いますけれども、よろしいですか。 また次の会議も8月にあるしというところかもしれませんけれども、まずはちょっと先に進めさせていただきます。
委員長	引き続き、議題を進めて参ります。 議題の3がございます。「高砂市子ども・子育て・若者支援プラン策定のためのアンケート調査結果報告書について」を事務局からご説明お願いいたします。 (3) 高砂市子ども・子育て・若者支援プラン策定のためのアンケート調査結果報告書について 【事務局より高砂市子ども・子育て・若者支援プラン策定のためのアンケート調査結果報告書に基づいて説明】
委員長	事務局から分析結果として、かいつまんでお話をさせていただきました。

	調査報告書を見たときに、回収率がすごく高いっていうのは、高砂市の特徴というか、でも、それはきっと学校だとか各施設さんにご協力くださった上の、結果なんだろうなってふうにも思うんですけども、私がすごく参考になるよねっていうかここまでされたんだと思うのは、実際のヒアリングをされてて、198ページからずっとその結果も出てるんですけども、なかなか現場の方すべてのお声を聞いて回るのって難しいんだけど、ここにかなり今の現場でどういう状況が起こってるのかっていうふうなことも把握できる調査だったなというふうに思っておりますので、ぜひ、これを生かして、次期計画ってふうに繋がっていければいいなというふうに思うんですが、皆様から何かこのアンケート調査結果でご説明もいただいておりますので、それについてご意見ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。 いかがでしょうか。今、事務局の方からね、中高生は結構、子育てにマイナスイメージ持ってる、おそらくこれ、コロナ禍で赤ちゃん抱っこする取り組みとか、そういうのが全部なくなってしまった時代のアンケートで、コロナ禍で子育て本当に大変なんですっていうふうな声が普段以上に出てましたので、そういう影響もあるのかもしれませんが一方で、実際こどもを育てておられる方たちはね、楽しい新生活が豊かになるよっていうふうな、ご意見だったってことなんですが、今の子育てされている方たちのお声として、何かこの計画にぜひ入れておきたいというふうなこと、アンケート調査結果に関わることはもちろん結構なんですけれども、あれば、出していただけたらと思うんですけど。 委員 私は、今は2年生と6年生のこどもがいて、子育てサークル自体には関わってないんですけど、ママボラの「ひなたぼっこ」の代表として、月1回だけ支援センターで、赤ちゃんと来られたお母さん達と本読んだり歌を歌ったりしてるんです。 多分、支援センターに来てくれるお母さんたちはそういうのを利用されてるのすごい、先生たちに相談できたり、そういう場があって無料でいろんなこどもたちと遊べる場があるんで、充実してると思うんです。 来られてない方の方が困ってることはあるんじゃないかなと思うんですけど、何かやっぱり、ああいう場所が苦手っていう人もいると思うんで、そういう人でも来てちょっと先生と相談したり、子育てでこう悩んでることをちょっと打ち明けて、先生たちがそのサークルとかを紹介してくれてまた、同じ子育てしてくれる人達と繋がれて、また変わってくれると思うんで、サークルの人たちは充実してるんじゃないかなと思うんですけど。
--	---

委員長	ないかなと思うんですけど、すいません。 貴重なご意見ですよね。来れる人達じゃないところで、きっとしんどい思いしてる方いらっしゃるん違うかなって、だからこういう計画にプラン作っていくときには、そこも目を向けるっていうことは、もしかしたら、アウトリーチの支援なんかも考えていく必要があるかもしれないなというふうに私は受けとめさせていただいたんですけども、日頃あの現場で見えていない方たち、それから、もっと言えばこのアンケートにご回答をいただけなかった方たちの声、それをきっと救い上げないと、市としては不十分なんだと思うんですよね。 答えていただける方は答えるだけの元気があったというふうにも、どんなに大変ですっておっしゃってても、答える余力がまだあったのかもしれないです。もうそれすら難しいですっていう方がゼロではないって考えたときに、どうしていくかはすごく問われていることなんだろうなってそのことを気づかせていただきました。 もう本当に、これが最後の議案です。最後ですので、ご自由に皆さん、ご意見、本当に残された時間を活用していただけたらと思うんですけども、なんか直接アンケートに関わって質問しますとか言うと言いづらい場合があっても、感じておられることはきっと繋がることだと思います。
委員	調査の中でヤングケアラーについての質問のところなんですけれども、最初に見た時にその質問の仕方というか、聞き方が、なんかヤングケアラー大変だとかっていうことじゃなくて、お手伝いをしていて、充実感があるとか、そういうふうに周辺から質問していてというか、そういう質問の聞き方というのは、とてもいいなというふうに思いました。ヤングケアラーについて聞くとなんかすごくネガティブな方向から、何かヤングケアラーをあぶり出してみたいなそういう聞き方をするようなことではなくて、ご本人も少しく、いろいろ考えながら、答えられるような聞き方をしているというのは、アンケート、とてもいいなというふうに思いましたし、このアンケート調査全体を通じて何かとても、丁寧に、質問項目を立てられていて、回答もそれなりにというか、丁寧に答えられてるのでちょっと非常に雑ぱくな感想で申し訳ないんですけども、特にそのように感じました。
委員長	先ほどね私がこのアンケートに答えられない人の声もって言いましたが、委員の

	ご意見からするとこの質問の仕方は、かなり答えにくくないように、配慮されたアンケートであったのではないかと思いますので、通常なら答えられなかった、答えてしんどくなってやめちゃったという人たちがきつとご回答いただけてるのかもしれないなそれがこの回答率に繋がってるのかもしれないですよ。 いろんな見え方がしてくるかと思います。
委員	すいません1点だけなんですけども、このアンケートの調査概要のところ、子ども・子育て支援に関する調査は保護者に行ってるということで、中学生とか高校生に少子化等に関する調査ということなんですけども、実際に多分支援を受けたいなと思ってるのは中学生であり高校生であるような気がするんですけども、この辺りを、その保護者のような質問であるとか、先ほど言われたような自分たちがどう思ってるのかみたいな、どんな支援を受けたいんかっていう直接な声を聞くようなアンケートみたいなことはされてないのかどうかこの辺りちょっとお聞かせをいただきたいんですけどもお願いします。
委員長	事務局よろしくをお願いします。
事務局	子育ての、特に低学年とか未就園児を対象にした具体的な施策を挙げて、それについてどう思うかっていうようなことは、中学生高校生を対象としたアンケートの中には、設問としては設けておりません。 また、ちょっとなかなかその施策一つ一つ自体の説明も必要になってくるかと思えますし、今現在、対象となる児童を養育されてる方の方にちょっとお聞きしたようなことにはなっております。 ただ、令和4年度に、「子どもの生活に関するアンケート調査」というのも実は行っておりまして、こちらの方に関しましては、保護者の方と、その保護者が養育している小学校5年生と中学校2年生の児童を対象に、同じような内容で、世帯一緒に回答していただくような調査も行っておりますので、一度またそちらの方の成果とも合わせまして、プランの方には盛り込んでいけるかなというふうに考えております。
委員	今質問した意図としては、中学生、高校生の人たちが、制度を理解して、要は親

	が申請してないとかわかっていない場合であっても、こどもがそういうことを気づいて、何か、何て言うんですかねそういう制度を利用できるような、少しでもきっかけになって欲しいなあということがあってですね、もう中学生高校生になると、そういうことをしっかり考えられる年齢になるんであらうと思ってますので、親だけに、その支援制度を理解してくれではなくて、やはり中学生や高校生、自分たちが利用できる制度をしっかりとわかって、親にもそれを、こういうふうに申請してねと、お願いできるような、人間関係を作っていただきたいと思うので、やはり情報が大事なと思いますので、中学生、高校生だからこれは知らなくていいではなくて逆に知ったことによって、いいようなことになっていくかなというふうに思いますのでそういうところも少し、考えながら、計画に盛り込んでいただければと思います。よろしくお願いします。
委員長	事務局、いかがですか。
事務局	先ほどアンケートの結果報告のところでも少し申し上げましたけれども、やはり市の子育てに関する施策を、若い方たちが知らない、知らないがゆえに、マイナスのイメージを持ったまま大きくなっていくところも、かなり大きな問題であるというふうに、アンケートの方からは、結果が出ております。 先ほど委員がおっしゃったように、それをどうやって解消するかっていうと、どうやって情報発信をしていくか、どうやって伝えていくかっていうところになると思います。 今回は、ちょっとこのアンケートをする中で、そういったきっかけとすることはできなかったんですけども、いただいたご意見をちょっと前向きに受けとめて、今後、アンケートする折には、情報発信っていう面もきちんと意識しながら、取り組んで参りたいと思います。ありがとうございます。
委員	私からは157ページの、地域活動を支援する活動についてというところについて、二つ質問させていただきます。 アンケートとして一番多いのが「自治会・子供会などの地域活動」というところで、性別年齢別に見ても、そこがすごく高くなってるのがわかります。 これを高砂市なので播州という地域性も一つあらわれてるのかなと、私も曾根地

	区で、青年団に入って秋祭りに参加してますので、そういう自治会っていう地域活動には熱心なところなのかなと思います。 私が言いたいのが二つ目なんですけれども、年代別に見ると15歳から19歳までが、災害が起きた時のボランティアというところがすごく、今後参加してみたい、参加している活動というところで上がっているかなと思います。207ページの調査結果のまとめのところでも、ボランティア登録制度を高砂市持ってますけれどもどうしても高齢化と固定化が問題であるというふうに述べられてるように、ボランティア活動に対しての支援をもう少し、高砂市にはやっていただきたいなと思っております。 私自身大学院で学部生時代から防災を専門にしまして、今回の能登半島地震も発災3日後から現地に入ってずっとボランティア活動してるんですね。今兵庫県内の学生団体を集めて、ずっと皆さんで月1で最低月1で支援をしていく中で、今回高砂市に一度そういう能登半島への支援に対して、例えば交通費を出してもらえなかったり助成金だったり、何かありますかというふうに今回問い合わせをしたんですけど、ちょっといろんな課を見ていただいたんですけどどこもないという形で、なので、こういう特にアンケート結果災害が起きたときのボランティア活動に参加している今後参加したいと思っている15歳から19歳がいるという現状がこれでわかりますので、ぜひその辺りの支援を、高砂市の方にはしていただきたいなと思っております。以上です。
委員長	どんどんこういうことをやっていこうって思えるようなご意見が出ております。 とりあえず今日何か一言しゃべって帰ろうかなと思われましたらぜひ挙手していただけたらと思います。 よろしいですか。
委員	市の方の施策としてっていう部分では若者のボランティア参加のもろもろというのがないかもしれないんですが、高砂の社協さんの方で高校生のボランティアを募集して大体毎回40名ぐらい、募集されて実際に6月の今年も6月の何日かに、ボランティアとは何っていう講座をやってから、子ども食堂であったり老人の施設であったり障害者の施設であったりっていうのを、それぞれ勉強も兼ねて参加をしたり、自分の興味があるところに、ボランティア行ったりっていうようなことは市内

委員長	だけですけれどね、外まで出ていくっていうことは多分できてないと思うんですけどそれを毎年もう、6年ぐらいは続けてると思います。 そういうような活動もあるなということだけ、お知りおきいただければと思います。 情報提供いただいてありがとうございます。 何となく和やかに、皆さん、意見をね、出してくださってる雰囲気があるんですけども、良い情報交換の場にもなれてるのかなっていうふうに思いますが、いかがですか。 よろしいでしょうか。それでしたら、本日の議題は以上です。 10 その他
委員長	その他として、次回の会議日程について、事務局の方でご説明お願いいたします。 【事務局より、次回の会議日程について説明】
委員長	これで一応すべての議題が終えました。本当にご意見等ないと判断させていただいてよろしいですか。 それでは以上をもちまして、令和6年度第1回高砂市子ども・子育て・若者会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。 閉会